令和４年度　授業改善推進プラン

教科（　　保健体育　　）　　学年（　　１　学年　）

学力調査・アンケート等の課題分析

ネガティブな回答が他学年よりも一割ほど多いのは、小学校の段階で運動というより、体育の授業に対してネガティブな思考にある生徒が多く、アンケート実施時期にはその意識改善には至っていないためと思われる。
学力調査については、保健体育は実施されていない。

授業等の課題分析

集団としては、良い意味でも悪い意味でも、ネガティブな２割程度の生徒が居心地が悪い状況にある。
指示に従うことが良いことだという意識がありながら、そこへの疑問が芽生えてきている時期である。
幼さを受け入れ、傾聴する余裕が、多忙により授業者にないタイミングがある。

目指す授業

生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育む授業
教え込み、できなければ減点する授業から、「教え込み過ぎない」「できなくてよい」「減点しない」授業

授業改善のための具体的な方策

・授業に係る業務に時間を割くよう業務精選に努める。
・運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有すべく、「できる」「得意」な生徒の役割を、「できない」「苦手」「きらい」な生徒に楽しさを伝えることとする。
・「できる・できない」は「技能」のほんの一部であり、主体的に楽しむことができたかどうかを重要視して指導にあたり、支援し、評価（加点法）する。

令和４年度　授業改善推進プラン

教科（　　保健体育　　）　　学年（　　２　学年　）

学力調査・アンケート等の課題分析

１、３年生と比べ明らかに傾向に違いがある。「当てはまる」より「どちらかといえば当てはまる」が多い。
目標の提示と振り返る場面があるかどうかの問い以外は、９割以上がポジティブな回答であった。目標とまとめの時間は、活動時間よりも意図的に優先順位を下げている。
学力調査については、保健体育は実施されていない。

授業等の課題分析

昨年度よりは飛躍的に授業規律が保たれているが、抑圧に適応しただけで、逆にいえば小さくまとまり、創造性・主体性に欠けている。
１，３年生と比べ、指示を聞き内容を理解したり、資料などを読み解いたりする力が劣っており、言動も幼い生徒の比率が高く、ボトムアップの授業形式にならざるを得ない。

目指す授業

生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育む授業
教え込み、できなければ減点する授業から、「教え込み過ぎない」「できなくてよい」「減点しない」授業

授業改善のための具体的な方策

・授業に係る業務に時間を割くよう業務精選に努める。
・１，３年生とは異なる性質の集団として個別の対応をとる。健康の保持増進や運動に親しむ喜びを、課題解決や主体的な学びより重視していく。
・運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有すべく、「できる」「得意」な生徒の役割を、「できない」「苦手」「きらい」な生徒に楽しさを伝えることとすることで、集団としての成長を図る。
・「できる・できない」は「技能」のほんの一部であり、主体的に楽しむことができたかどうかを重要視して指導にあたり、支援し、評価（加点法）する。

令和４年度　授業改善推進プラン

教科（　　保健体育　　）　　学年（　　３　学年　）

学力調査・アンケート等の課題分析

振り返る場面があるかどうかの問い以外は、９割以上がポジティブな回答であった。目標とまとめの時間は、活動時間よりも意図的に優先順位を下げている。
学力調査については、保健体育は実施されていない。

授業等の課題分析

昨年度の課題から、単元テストを実施し、定期考査の負担を軽減した。
まだまだ本務である授業に関わる業務に割ける時間が確保しきれていない。

目指す授業

生涯にわたって豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育む授業
教え込み、できなければ減点する授業から、「教え込み過ぎない」「できなくてよい」「減点しない」授業

授業改善のための具体的な方策

・授業に係る業務に時間を割くよう業務精選に努める。
・運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有すべく、「できる」「得意」な生徒の役割を、「できない」「苦手」「きらい」な生徒に楽しさを伝えることとする。
・「できる・できない」は「技能」のほんの一部であり、主体的に楽しむことができたかどうかを重要視して指導にあたり、支援し、評価する。